

(一般社団法人) 大学女性協会仙台支部便り

「け や き」 No. 31

令和 8 年 6 月 23 日発行



最近の活動と参加人数

2026 年

2 月 11 日 (水・祝) 2025 年度 新年会 (会員 14 名)

「私の戦後 80 年 ―大学女性協会との関わりの中で―」 (Y.R. 会員)

エル・パーク仙台 特別会議室

4 月 18 日 (土) 2026 年度 支部総会 (会員 12 名)

「チャイルド・ファンド・ジャパンと仙台支部」 (M.Y. 会員)

エル・パーク仙台 特別会議室

5 月 16 日 (土) - 18 日 (月)

【本部】2026 年度全国総会・第 15 回定時会員総会

東京 (仙台支部から 3 名)

★このほか以下の日程で役員会を開催しました。

エル・パーク仙台 市民活動スペース

1 月 21 日 (水) 2025 年度第 9 回役員会

2 月 18 日 (水) 2025 年度第 10 回役員会

3 月 18 日 (水) 2025 年度第 11 回役員会

4 月 15 日 (水) 2026 年度第 1 回役員会

5 月 20 日 (水) 2026 年度第 2 回役員会

6 月 17 日 (水) 2026 年度第 3 回役員会

本号の内容

支部長挨拶 (A.F.)

2025 年度 新年会のご報告 (I.Y.)

2026 年度 支部総会のご報告 (U.M.)

2026 年度 全国総会に参加して (N.N.)

お知らせ

今後の予定

支部長挨拶

A. F.

緑の美しい清々しい季節となりました。会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より当支部の活動に温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。今年度も会員同士の絆をより一層深めながら、時代に即した新たな学びや交流の場を企画してまいりたいと思います。ご提案やご意見がございましたら、是非役員までお寄せいただけますと幸いです。また、この数年全国総会でも取り上げられておりますが、会員数の減少が課題となっております。当会の趣旨にご賛同いただける方がいらっしゃいましたら、ぜひお声がけのご協力をお願い申し上げます。今年度も皆様が健やかに過ごされ、楽しく活動にご参加いただけることを願っております。

2025 年度 新年会のご報告

I. Y.

2 月 11 日（土）エル・パーク仙台特別会議室で開催されました新年会と、Y. R. 会員による講演には 14 名の会員が出席しました。講演のテーマは「私の戦後 80 年 大学女性協会との関わりの中で」です。宮城県で活躍されました R 子会員のこれまでの軌跡を辿ります。

1937 年

旧満州国の遼陽で生まれ、鞍山市の国民小学校に入学。

1947 年（10 歳）

戦後、技術者である父親が強制留用されたため、R 子会員一家は小学 4 年生の時に帰国します。帰国後は父親の実家である熊本県で暮らしますが、翌年に母親の実家である宮城県に移住し、学生時代を過ごします。「教育こそ身につく財産である」という父親の考えのもとで育った R 子会員は宮城県立第一女子高等学校に入学します。個性豊かな友人たちに出会い、演劇部や新聞部などいくつかの部活動を掛け持ちし充実した学校生活を送りました。当時は「女の子の高等教育は縁談の邪魔になる」と考えられていた時代で、一女高でも就職が普通で進学率は 3 割程度でした。

1956 年（18 歳）

東北大学文学部に入学。そこで R 子会員は「リバサイド奨学金（条件：仙台在住の女子学生）」に出会います。「リバサイド奨学金」は、朝鮮戦争の始まった翌年 1951 年に大学婦人協会仙台支部会員が在仙のアメリカ軍病院の疾病兵を見舞ったことがきっかけとなり始まったものです。1953 年から 1981 年までの 28 年間に延べ 176 名の女子学生に奨学金が贈られています。そのうちの 1 人が R 子会員です。書籍代として使われたそうです。リバサイド市と仙台市では姉妹都市提携が結ばれており、現在も交流が続いています。

※「リバサイド奨学金の由来」についての詳細は、大学女性協会仙台支部 50 年史にまとめられています。



ジャーナリストの夢をもつ R 子会員は NHK を目指しますが、当時の NHK は女子には受験の機会が与えられず、悔しい思いをされたようです。しかし、東北放送では初めて女子 2 名の採用があり、倍率 250 倍のところを見事に合格。報道部に所属し放送記者として活躍されました。全国ネットの企画ものも担当されて、そのひとつに、金華山のご来光の瞬間をとらえる正月番組があったそうです。その時に撮影されたスナップ写真が R 子会員のお気に入りの 1 枚です。

1962 年（25 歳）

女子アナ 30 歳定年説がささやかれる中、R 子会員は自ら望み、卒業時に婚約していた現在の土木技師である夫と結婚退職をします。盛岡、塩釜などと慣れない土地で、3 人の子どもの親となり、家事に専念しながらも、社会に取り残されそうな焦りや虚しさ、孤独感を覚え、いつか大学に戻ろうという夢を見ていたといいます。

1971 年（34 歳）

夫の転勤で仙台に移住。長女の通う八木山小学校で PTA 役員を務め、2 年後には東北放送のワイドショー「なんでも奥さん」にレポーターとして出演します。その時、R 子会員は久しぶりの充実感を覚えたそうです。

1975 年（38 歳）

八木山南に一軒家を持ちます。子どもたちの登下校に使う道が安全上の問題があることに気づき、子どもたちを守るための親の会や子供会を結成します。そして、

八木山南小学校開校（1977 年）では、設立準備委員として尽力されます。

1979 年（42 歳）

会長は男性という時代に「これからは女性の時代が来ます」という校長先生の励ましの言葉があって、八木山南小学校の PTA 会長を引き受けます。市連 PTA 幹部役員となり、仙台市女性リーダー研修旅行にも参加。翌年には、心理学を専攻していた R 子会員に 1 歳半健診に必要な仙台市衛生局保健所心理判定員（非常勤嘱託）としての就職の依頼が東北大学から入ります。その他、仙台市社会教育委員、法務省人権擁護委員などと様々な分野でも活躍されています。

1981 年（44 歳）

日本が経済的に発展し、リバサイドからの奨学金は終了。翌年 1982 年に元リバサイド奨学生たちが発起人となって、新たな仙台リバサイド奨学会が始まります。2006 年までの 25 年間でアジアからの私費留学生、延べ 133 名に奨学金を贈っています。奨学生を希望する人の中には、皿洗いや新聞配達などのアルバイトをしながら大学院へ挑戦する 40 代の人、羊を売って学費を工面し来日したもののお金がないためスーパーの安い卵で空腹を満たしている人、天安門事件に絡み身を隠している夫と来日し、旅館の仲居をしながら学んでいる人と様々な人たちがいたそうです。

1993 年（56 歳）

月に 1 回例会をもつ「女性学を学ぶ会・仙台」を、R 子会員と仲間の方が結成します。

1994 年（57 歳）

ゼネコン問題を機に「政治を考える女性の会」を仲間と共に結成します。

1995 年（58 歳）

女性のための海外研修事業「女性の翼」に選抜され、出向いた男女共同参画社会の先進国スウェーデンで、平日だというのにベビーカーを押している何人もの男性の姿を目の当たりにします。感動した R 子会員は「どのようにして男女共同参画社会を築くことができたのか」という質問をしたところ、回答は「女性の議員を増やした、女性の生活環境を整えるための法律を整備した」だったそうです。

1996 年（59 歳）

仙台リバサイド奨学金の賛助会員でもあった愛知絢子氏からの再三にわたる誘いにより、大学女性協会仙台支部に入会します。

1998 年（61 歳）

保健所心理判定員を退職後、県の社会教育委員、生涯学習委員、環境審議会委員などを務めます。

2000 年（63 歳）

2 代目の県政オンブズマンに就任されます。月 6 回の非常勤勤務、4 年の任期を終了します。

2005 年（68 歳）

県警の犯罪捜査報償費や議員の政務調査委費が注目を浴びていた時期に、県監査委員（常勤特別職）を務めます。R 子会員は大変な緊張感をもって臨まれたそうです。地方機関監査を行った際に、女性の管理職がとても少ないことに気づき、「管理職への女性の登用率を知事裁量でアップすることができるのではないか」と知事に投げかけたところ、返答は「女性がそこまで育っていない」とのこと。その時、かつて R 子委員が関わった民間企業の女性の意識調査の結果「管理職として責任ある立場にはなりたくない」という声を思い出したといいます。

宮城県の監査委員として秋の園遊会に出席します。「監査って何をするの」と美智子妃殿下から声をかけられたといいます。秋篠宮さまや紀子さまとの会話も楽しまれたそうです。

2006 年（69 歳）

人権擁護委員として 20 年、藍綬褒章を受章します。R 子会員一人で出席されましたが、「夫の協力があつての受章」と思い立ち、帰宅途中に夫と連絡を取って記念写真を撮る段取りをお願いしたそうです。その時のツーショットがこちらです。



2009 年（72 歳）

R 子会員のお人柄でしょう。4 年間務めた県監査委員退任の日は、県庁入口に監査

委員事務局総出で送り出してくれたそうです。

Y. R. 会員は、ご自身を題材にして、一昔前の女性の置かれた状況、女子に対する社会的通念を私たちに教えてくださいました。最後に「今世界の紛争が起きている地域を思う時、男女平等は平和な世界でこそ実現するもの。戦争だけは避けたい、やってはいけない。世界の平和を心から願っている」とおっしゃっていました。年齢を全く感じさせない素敵なお88歳のR子会員、本当にありがとうございました。



←Y.R.会員(前列右から2人目)と、報告者のI.Y.会員(右端)。撮影はU.M.会員。

↓新年会ではちょっと豪華に、なだ万の華やかなお弁当を楽しんだ。



2026年度 支部総会ご報告

U. M.

4月18日(土) 12:30~14:30

会場 / エル・パーク仙台 特別会議室

出席12名、委任状7名

N. N. 会員の司会により、A. F. 支部長からのご挨拶を頂いて総会が始まりました。そして議事である1)2025年度事業報告 2)2025年度収支決算報告及び監査報告 3)2026年度事業計画案 4)2026年度予算案が無事に承認されました。最後に2026年新年度の新役員(支部長/相澤富美江、副支部長/澁谷由美子・中屋紀子、書記/赤松千鶴・浦田麻弥、会計/氏家薫・岩倉敦子、監事/池田由美・齋藤歩、特別委員 奨学生担当/松山裕美子、顧問/谷地森涼子)のご紹介があり、S. Y. 会員の閉会の挨拶をもって総会は終了しました。

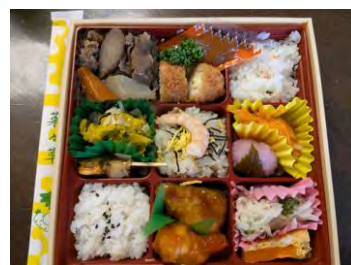
13時になり毎回お楽しみとなったランチタイムには、今年も色鮮やかなお弁当とお茶が用意されました。テーブルで輪になって皆で美味しく頂きながら、欠席された他の会員の方々の近況や新しい会員を増やすことについて語り合いました。

昼食を終えて今年度最初のお話は、特別委員で奨学生担当である M.Y. 会員による「チャイルド・ファンド・ジャパンと仙台支部」でした。チャイルド・ファンドを通してフィリピンの女子児童を支援することになった経緯や活動内容等について、詳しくご説明をして頂きました。お話の中でお母様の M.S. 会員のお姿と笑顔を思い出し、改めて素敵な女性でいらっしゃると思いました。良いお話をお聞かせ頂きまして有難うございました。



←支部総会参加者と、お話をしてくださった M.Y. 会員(前列右端)。日本が経済的豊かさを享受していた時代に、お母様の M.S. 会員が中心となり、フィリピンの女子学生 or 生徒への支援が始まった。

↓おいしいおかずがいろいろ詰まった菜々草のお弁当。



←仙台支部が現在支援している、N.H.さん(16 歳)。
(更に詳しい情報をご覧になりたい方は、役員までご連絡ください。)

2026 年度 全国総会に参加して

N. N.

5 月 16 日 (土) から 18 日 (月) まで開かれた 2026 年度の全国総会・第 15 回定時会員総会は東京が開催地で、KKR ホテル東京が会場でした。在職中は何回も行ったことがあるのに、すっかり忘れていて、ドキドキしながら、地下鉄乗り換えで会場に着きました。

5 月 16 日 14:00 から開かれた支部長会議から始まりました。私は A.F. 支部長の代理で、この会に出席しました。「会員減少、高齢化に伴う困りごと」など 7 項目のアンケートが事前にあり、結果はすでに各支部に配布されておりましたが、当日、改

めて、それが印刷・配布されました。出席者の氏名や各支部の会員数なども書いてあり、時間が少ない中での工夫が感じられました。総会議案についての議題のほか、奨学生推薦の手続きや91歳以上の正会員の会費免除申請手続きなどについての事務的な確認もありました。



17日の総会会場も昨日の支部長会に続いて、皇居の緑がよく見える会場でした。総会から出席のA.F.さんS.Y.さんと、朝早くにお会いできました。配布された資料に基づいての報告と審議は無事に終わりました。次年度は茨城県水戸市開催とのことです。議題には載っていませんが、会長あいさつや、会計担当者の発言によると、「移行」後の会の「おおもとの法人のありようについて」の議論が今後、大きな「課題」になるよう

うです。「移行期」を終えて、正式に「公益社団法人」とするのか、もしくは、もとの「一般社団法人」とするのかの議論のようです。

加藤陽子氏（東京大学名誉教授）の記念講演は「過去を振り返る時、歴史が生まれる ～戦後80年の意味と日本の近代～」という大きなテーマでした。短い時間でしたが、柔らかい口調のなかで、「戦後80年」の意味をとらえ直して紹介されました。私は著書を読んでいきましたので、特に総理大臣の70年談話と80年談話の違いを指摘されたことが印象に残りました。



その後、80年記念誌（左の写真）の『HERitage 80』を全員に配布しながら、約1時間半、映像を用いての「大学女性協会の80年」の紹介がありました。

懇親会には欠席しましたので、A.F.さんが撮られた写真で報告に代えさせていただきます。

→5/17(日)の80周年記念懇親会。
長谷川瑞穂会長の挨拶。





↑歴代会長の皆さん。左から中村久瑠美さん、鷺見八重子さん、お話しされているのは加納孝代さん、そして一番右は岩村道子さん。



↑アトラクションは海野幹雄氏によるチェロ演奏。伝統的な羊腸ガット弦による温かみのある音色を生で聴ける、またとない機会だった。



↑仙台支部からはA.F.支部長(後列左端)とS.Y.会員(前列中央)が参加した。同じテーブルの皆さんと、記念の1枚。

◆ お知らせ ◆

本年 11 月に 91 歳のお誕生日を迎えられる S.C.会員から、仙台支部にご寄付をいただきました。使い道について役員会で話し合った結果、国内奨学生にご応募いただいて選にもれた学生との交流（研究のお話をしていただく）を毎年行い、奨励金として1万円を学生に授与することといたしました。S.C.さんにもご報告して、喜んでいただくことができました。いつも支部の活動を見守り、支援してくださる S.C.さんに、心より御礼申し上げます。

◆ 今後の予定 ◆

- | | | |
|-----------|--------|------------------------------|
| ○ 9-10 月頃 | 美術館鑑賞会 | 宮城県美術館「カンディンスキー展」(検討中) |
| ○ 11 月頃 | 研修会 | 3GeV 高輝度放射光施設ナノテラス見学 |
| ○ 12-1 月頃 | 公開講演会 | 講師未定 |
| ○ 翌 2 月 | 新年会 | 斎藤歩会員：歯の健康に関するお話
(タイトル未定) |

仙台支部便り「けやき」No.31

2026 年 6 月 23 日 発行 (一社) 大学女性協会仙台支部

記事に関するお問い合わせはこちらまで：A.C. (書記)